

【6月4日】

6時過ぎには起床したが、外は低い雲が垂れ込め風雨が強い。この悪天候ではアポイ岳登山は諦めざるを得ず、ビジターセンターをオープン時間の9時に合わせて訪問することにした。センターはアポイ岳の登山口に位置し、アポイ岳の生成過程や生息している高山植物や動物等についてパネルなどにより丁寧に説明していた。オープン少し前に到着したが、そこにはこれから登山を開始しようと十数人が集まっており、この風雨の中を出発していった。私たちはその時来ていた4名のビジターと共にセンターに入ると、そこにはセンターのスタッフがいて、これから高山植物の増殖施設(写真-23)があるので良ければ来ないかとの誘いがあり、【早起きは三文の得】の乗りで案内してもらうことにした。そこには多くの高山植物が鉢植えされており、アポイ岳の植生維持に役立てているとの説明があった。中でもヒダカソウは盗掘などによりアポイ地区での絶滅が心配されているそうだ。昼過ぎまでセンターで過ごし、近くのアポイ山荘で昼食(ツブ貝井・写真-25)を食した後、天候も回復し雨がほぼやんだことを確認し、幌満峡へ行くことにした。幌満峡は、この周辺のかんらん岩が「幌満かんらん岩体」と名付けられているように、アポイ岳と並んでかんらん岩分布の中心地の一つである。幌満峡は、幌満川(全長約25km・2級河川)に沿って形成された峡谷で上流には幌満ダム(発電ダム)があり、下流には3カ所に発電所がある。最下流左岸にはかんらん岩を採取している採石工場があり、かんらん岩を採掘、製品化している。かんらん岩の限定的な採掘は認められているようだ。写真-25は海沿いに点在している昆布干し場でこの一帯は「日高昆布」の産地として有名、昆布干し場にも「かんらん岩」が敷き詰められている。日高昆布の隠し味になっているかも?かなり雨が降った後なので谷からの流出も多く慎重に川沿いの林道を進み、下流から6km余り上流の第三発電所まで行き引き返した。途中で幌満ゴヨウマツの自

写真-22 アポイ岳ビジターセンター



写真-23 高山植物増殖場

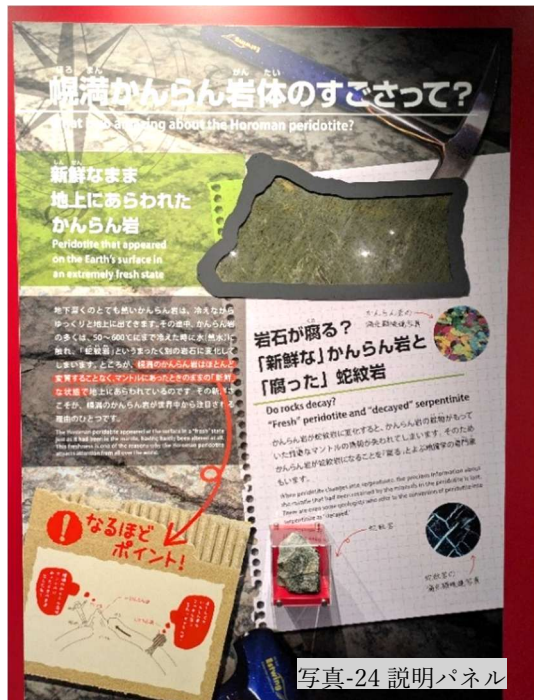


写真-24 説明パネル

生地の記念碑があった。峡谷はかんらん岩を浸食した深い谷となっており、周辺植生は針広混交林帯となっており、秋には紅葉の名所となっているそうだ。16時半頃様似町に戻り観光案内所へ。ここは、2020年まではJR日高本線の終点駅だったもので、2021年には廃線となった。次に様似町役場の前にある「かんらん岩広場」へ。ここにはアポイ岳周辺を構成する岩石が展示されており、流石に世界ジオパークの町である。磨き上げた新鮮なかんらん岩は薄い緑色を呈し美しい。その後、様似町の観音山にある展望台に行った。ここは雄大な太平洋を見渡すことができ様似港、エンルム岬、親子岩などを見ることができた。これらの岩は、貫入岩として多く見られるヒン岩でできているそうだ。夕暮れ時が近づき18時半頃旅館に戻り夕食・入浴でゆっくり寛ぐ。天気は回復し、明日は早い時間からアポイ岳登山を実行する。14時頃までに頃までに下山予定でゆっくりとした登山にはなりそうもない。(写真-27~32)